

No. 160
2014. 1

ねば

広報

— 私たちの村 —

人口と世帯 25年12月31日現在

総人口	1,031人
男	506人
女	525人
世帯数	417世帯

村の木 す ぎ

村の花 岩つつじ

発行 根羽村役場
〒395-0701 長野県下伊那郡根羽村1762
TEL 0265-49-2111 FAX 0265-49-2277

ホームページアドレス <http://www.nebamura.jp>
メールアドレス info@nebamura.jp
印刷 龍共印刷株式会社



1月19日(日)に、平成25年度第1回大杉大学冬期講座が行われました。講師には、根羽村のふるさと親善大使である、花咲ゆき美さんをお迎えし、盛大に開催されました。 ※詳細は8ページ

1月号の主な内容

村長・議長年頭ごあいさつ他 …… 2・3 ページ
議会だより他 …………… 4・5 ページ
新保護司紹介、申告相談のご案内他 …… 6 ページ
アライグマ対策、民生委員改選他 …… 7 ページ
食の文化祭、戸籍だより他 …………… 8 ページ

年頭ごあいさつ



根羽村長

大久保 憲一

新年明けましておめでとうございます。

平成二十六年の新春を迎え、村民の皆様のご健勝を心からお慶び申し上げますとともに、日頃から村政に対しまして、ご理解とご支援を頂いておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、昨年は各地でゲリラ豪雨や台風など、大規模な自然災害が多発した年でありました。当地域を通過した台風十八号で、飯伊地域でも大きな災害が発生しました。当村でも、村道、林道等の一部が被災しましたが、幸い大事に至ることはありませんでした。こうした自然災害に対して、改めて日頃からの備えをしつかりしてまいりたいと考えているところです。

さて、昨年の村内の出来事を振り返って見ますと、いろいろなことがあります。赤坂地区へ総合的な高齢者福祉施設を建設することを決定し、「デイサービス棟の建設に着手しました。また、「月瀬の大杉」への駐車場と吊り橋整備など、大杉周辺整備

工事にも着手しました。森林組合製材工場では、念願でありました日本農林規格であるJAS認証工場の資格を取得するとともに、乾燥施設の熱源として、新たに木質ボイラーの導入を図りました。また、山に放置されている間伐材を自分達の手で搬出し、村内のみで使える地域通貨に交換して、地域内での経済循環を進める「木の駅プロジェクト」の始動、明治用水根羽造林地開設百周年記念事業の取り組み、矢作川流域の皆さんとの様々な連携をした取り組みなど、多くの皆さんのご支援とご協力によって、元気な村づくりを進めることができました。

さて、現在村では二つの大型事業に取り組んでいます。まず、高齢者福祉施設の整備ですが、平成二十五年度は赤坂地区へデイサービス棟の建設に着手しました。平成二十六年度は、シヨーステイ四室と、二十九人収容の地域密着型特別養護老人ホーム棟の建設、併せて駐車場と周辺整備工事を計画しています。

これらの施設整備は村が行い、運営については愛知県一宮市に本部のある愛知慈恵会さんに委託する「公設民営方式」で進め、施設の開所は、平成二十七年春を目指して準備を進めています。また、この施設の運営にあたつては、相当数のスタッフが必要となります。是非多くの皆さんに、就労の場としても活用して頂くようお願い申し上げます。

次に、大杉周辺整備事業についてですが、地権者の皆さんや関係する多くの皆さんのご協力を頂き事業に着手できましたことに、対し改めて感謝と御礼を申し上げます。今回の整備では、国道側へ大型バスを含めた駐車場整備、トイレの設置、矢作川を渡る幅員二メートル延長約五十メートルの歩道用吊り橋の設置、大杉までの遊歩道の整備を第一期整備工事として計画しています。大杉周辺の整備については、改めて皆さんとしつかりと協議を進めながら、第二期整備事業として位置づけをしてまいりたいと考えています。今回の整備を契機に、最大の資源である「月瀬の大杉」を、いかに活用して地域内に経済循環を引き起こしていくのか、地域の皆さんや村民の皆さんが主役となるよう、一緒に頑張って取り組んで行く必要があると考えています。

さて、私たちが根羽村に誇りと自信を持つて、安心して住み続けられることが必要です。そのためには「地域内に雇用の循環があること」、「地域内に経済の循環があること」、「地域内にサービスの循環があること」の三つの循環が大切であると考えています。雇用の循環は、文字通り働く場所や機会があることです。経済の循環は、村内でお金が動き、村内にお金不落ちる仕組みです。サービスの循環は、医療や教育、福祉、その他生活をするための基礎的な様々なサービスです。地域内でこれらが循環する仕組みをしっかりと作って実践して行くことが大切です。

私は、今年の一字に循環の「循」の字を選びました。村内にある人、物、全てを資源として自分達の地域は自分達で考え、作っていく力強い一年となるよう、大きな期待を寄せるつもりです。こうした視点に立った上で、平成二十六年当初予算編成にあたっては、継続事業である「高齢者福祉施設整備工事」と「大杉周辺整備工事」の二つ

の重点事業の完了を目指します。林業基盤整備では、林道外山高橋線、洞中線の開設、子育て支援や若者定住対策については、新たに高校進学時の父兄への支援策の実施、スクールバス協力費の廃止、若者定住対策補助金へ住宅の新築、改築、土地購入等に関する項目の追加など、それぞれ内容の充実を図っていきます。

本年も村民の皆様が、今まで以上に「根羽村に住んで良かった」として「これからも根羽村に住み続けたい」と思える村となるよう、力一杯取り組んでまいりますので、村民の皆様のご協力、ご支援をお願い申し上げます。平成二十六年が根羽村にとりまして、そして村民の皆様にとりまして、幸多き年となることを心からお祈り申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。



根羽村議会議員

片桐 龍男

新年明けましておめでとうございます。平成二十六年の新春を迎え、皆様ご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年は振り返ってみま

すと、七月に参議院選挙が行われ、衆参のねじれが解消し、安倍政権がスタートしました。アベノミクス、三本の矢政策が打ち出され、景気も上昇傾向にあ

ると思われます。

また、昨年末には、北朝鮮のナンバーⅡにかかわる衝撃的なニュースが飛び込んでまいり、我々はもうん、日本中、いや、世界中が仰天したところです。

また、人工衛星の名目でミサイルの発射実験も行っており、北朝鮮が今後どのような政策を展開していくか、注視していく必要があると思います。また、尖閣諸島を含む領土問題も冷静に判断しながら、国民の生命財産をしっかりと守っていただきたいと思います。

近い将来、東海沖地震が想定される中、浜岡原発の再稼働が報道されており、政府には何を置いても国民の安全を第一に考えて対処していただきたいところです。また、近年では台風、竜巻、高潮、土砂崩れなど、大きな自然災害が多発しておりますので、平成十二年のときのような大災害が起きないことを願うばかりです。

二〇二七年に開通するリニア中央新幹線関係では、飯田駅がJR東海から示されました。これからの十三年間をどう充実させ、十三年後をどう迎えるか、しっかりと見据えるべきです。

現在、高速バスで四時間余りの所を、リニアが開通すれば東京―飯田間を約四十分で往き来できます。また、三遠南信自動車道の開通もあわせ、十三年後の伊那谷及び飯伊地域の発展が期待されるところです。

こうした中、村では大杉公園整備事業を手がけています。県下一番、全国でも五番の内に入ると言われる大杉を全面に出して、村民、地域の活性化に繋げていきたいものです。

また、安心して住み続けられる村にするために、平成二十七年春の開所を目指して、地域密着型特別養護老人ホーム、高齢者福祉施設を赤坂地区に建設中です。愛知慈恵会さんのご協力をいただき、運営を行っていきます。この施設を村民の皆様のが就労の場として考えていただきたいと思います。パート従業員を含めて四十名以上の働き手が必要で、若者の働く場となれば、人口増加にも繋がります。事業のひとつとして村の活性化にも繋がるとかと思っています。

ドイツ・レッテンバッツハ村のフィッシャー村長の講演では、五八〇人まで減少した人口を、どんな取り組みで若者を村に呼び戻し人口を増加させたか、過疎の危機感を持つ根羽村でも参考にしながら、本気で取り組んで未来に繋げていきたいと思っています。

本年も、私たち議会は村執行部と共に、住みよい村づくりに邁進していく所存ですので、ご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

今後の、根羽村の繁栄と飛躍、そして、村民の皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。

平成25年 根羽村十(重)大ニュース

1	高齢者福祉施設の全体計画が決まり、デイサービス棟の建設が始まりました。 【コメント】 村民の皆さんのアンケート調査結果をふまえ、高齢者福祉施設検討委員会が協議を進めてきました高齢者福祉施設の全体計画が決まり、赤坂の旧子牛市場跡地に9月からデイサービス棟の建設が始まりました。
2	大杉周辺整備事業に着手しました。 【コメント】 永年地元の代表を含めた「大杉周辺魅力づくり委員会」の検討結果をもとに、今年度から整備事業に着手しました。矢作川を渡る吊り橋と大型バスの停まれる駐車場の建設が始まりました。
3	森林組合がJAS認定工場の資格を取得すると共に、木質ボイラーとグレーディングマシンを導入しました。 【コメント】 根羽村森林組合が農林水産大臣が制定した日本農林規格(JAS)の認定工場の資格を取得するとともに、製材品の性能を表示するグレーディングマシンを導入し、より信頼性の高い製品が生産できる体制を整えました。 また、製材工場から発生する端材などを燃料とした木質ボイラーを導入し、乾燥施設の燃料費用軽減と、CO2削減を図りました。
4	地域経済循環を目指す木の駅プロジェクトが始まりました。 【コメント】 間伐で山に放置された林地残材や、小径木などの未利用材を、エネルギーとして供給する木の駅プロジェクトが始まりました。運び込まれた立木は、村内の商店で使える地域通貨券で買い取られ、地域内での経済循環を目指しています。早速、中学生も総合学習の中で、学校林の間伐材を木の駅に出荷しました。集められた材は、平成27年春に開所予定の特別養護老人ホームの木質バイオマスボイラーの薪として利用されます。
5	明治用水根羽造林地の開設100年祝賀式典を開催しました。 【コメント】 愛知県安城市を中心とする西三河に通水する明治用水土地改良区が、「水を使うものは自ら水をつくれ」の理念のもと、根羽村に造林地を取得してから、100年が経過したことを記念して盛大に祝賀式典が開催されました。
6	消防団に外国語指導助手のマイケル先生が入団しました。 【コメント】 今年8月にアメリカから根羽小中学校で英語の指導助手(ALT)として勤務されている、マイケル先生が消防団に入団しました。ALTが消防団に入団したのは県内でも先例がなく、今後消防活動等を通じ根羽村民としての活躍が期待されます。
7	福祉医療費給付金の支給対象年齢引き上げと人間ドック補助事業の拡大を図りました。 【コメント】 0歳児から中学生までの医療費の無料化を、高校3年生まで引き上げ拡大しました。また、4月から足助病院以外の医療機関の人間ドックや脳ドックにも助成を始めました。
8	小中学生がスポーツや弁論大会で活躍！ 【コメント】 小学校4年生の男子が飯伊わんぱく相撲で優勝し横綱となり、両国国技館で行われた全国大会に出場しました。また、中学3年生の女子が英語の弁論大会で2年連続県大会に出場し、初入賞を果たしました。
9	第1回食の文化祭が開催されました。 【コメント】 根羽村の素材にこだわった伝統食や家庭料理を持ち寄り、山の恵みと里の恵みに感謝し、次世代に伝える「食の文化祭」が開催され、86品の料理が出展されました。
10	学校給食のお米が全部おいしい根羽村産となりました。 【コメント】 村内農家の協力をいただき、学校給食で安心安全な地元米が供給できるようになりました。

消防団 出初式

平成26年1月5日、根羽村消防団出初式が厳粛に挙行されました。今年は万場瀬の根羽給油所付近からしゃくなげまで市中パレードを行い、その後しゃくなげで式典が行われました。

式典では、長野県知事、飯伊消防協会長をはじめ多くの来賓の皆様にご臨席を賜り、盛大に開催できました。最後に「火の用心三唱」を参加者全員で行い、今年1年の無火災の祈念とお互いの防火意識の高揚を図りました。



市中パレードの様子



式典の様子

議会だより

十二月定例会

一般会計補正予算等
九議案について審議

十二月十七日・十九日の二日間にわたり十二月定例会が開催されました。
内容については次のとおりです。

一般質問

◆石原賢蔵議員

質問 高齢者福祉施設で働くスタッフの住む場所についてどのような考えますか。また、大畑地区旧プール横の住宅が大変損傷しているが対策についての考えはありますか。

回答 この施設で働く人は愛知慈恵会の正社員、或いは準社員、パート社員として採用されることになり、約四十名から五十名の採用になると思われます。今回採用される職員は出来るだけ根羽村の関係者の皆さんに勤めていただきたい考えを慈恵会、或いは村も検討して進めています。従業員の住む場所ですが、地元関係者であれば自宅通勤となります。施設の立ち上げ時には、慈恵会本部から社員が来て

②若者定住促進住宅、少子高齢化防止、結婚促進委員会の対策について

③地区別、区長懇談会での意見の対応について

④村長の五つの公約は予算に反映されるか

指導をしていただく事になりますのでこの方達については、村内の村営住宅の空き状況を見ながら利用しようと考えています。ただ、村営住宅の戸数にも限界がありますので従業員の構成がある程度出来た段階でさまざまな対応を考えていきます。また、大畑の公営住宅ですが、昭和五十年の建築で既に三十八年余り経過しています。特に湿気による傷みが大部分であります。今後、建て替えについても検討していきたいと考えています。

◆原 光史議員

質問 大型事業の発注、執行が行われる平成二十六年度予算編成方針について村長の考えを伺います。

①地域密着型特別養護施設、大杉公園の本年度進捗状況及び二十六年度計画について

車場の舗装工事、吊り橋から大杉までの遊歩道整備、駐車場側へのトイレの整備を計画しています。

若者定住促進住宅の取り組みについては、平成十六年度に村外からの転入を促進して過疎化の防止と村の活性化を図る目的で田島地区に住宅用地の取得と宅地整備を行い、翌年度から募集を始めました。当初八区画を造成し、現在個人住宅として一区画、村営住宅として二区画使用しています。また、今年度事業で計画している低コストコンパクト住宅についてもこの用地に建設を計画しています。将来的には二区画へこのコンパクト住宅三棟程度を建設して村営住宅として利用する予定をしています。残りの区画については、当初の目的どおり進めていきたいと考えています。

少子高齢化については、日本中の人口が減少する中で共通した大きな問題になります。根羽村の十四歳までの人口は八十二人で全体の七・九%、十五歳から六十四歳までの人口は四百七十四人で四十五・七%、六十五歳以上の人口は四百八十二人で四十六・四%となっています。こうした中で村民の皆さんが安心して住み続けられる仕組みを構築して実行していくことが持

続可能な地域をつくるために必要不可欠な事と考えています。このためには、雇用の確保、地域内での経済循環、各種サービスの循環が大切であり、そのためのさまざまな施策を展開していきたいと思っています。

結婚促進に関する事について、平成二十一年に相談員八名をお願いし、活動を行っています。具体的には、平成二十二年度からさまざまな婚活イベントを開催し、出会いの場を設けています。平成二十六年度は婚活ツアーの実施も含めて積極的な活動を行い一組でも結婚まで結びつけられるような取り組みを行っていききたいと考えています。

地区懇談会での意見等について、今年度の地区懇談会は三月二十七日から六月二十四日まで、の間、全地区実施しました。要望や意見、質問等二百件余りありました。緊急を要している内容については既に対応しています。但し、すぐに解決できない課題等もあるので今後も検討し進めていきたいと考えています。村づくり基本的な考えの五点については、二十六年度予算にも反映し、現在進めている継続事業の実施、更なる内容の充実確保を図りながら積極的に進めていきたいと考えています。